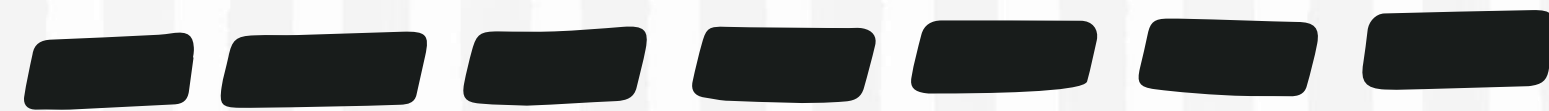


令和7年度新たな取組

学校の居心地向上 プロジェクト



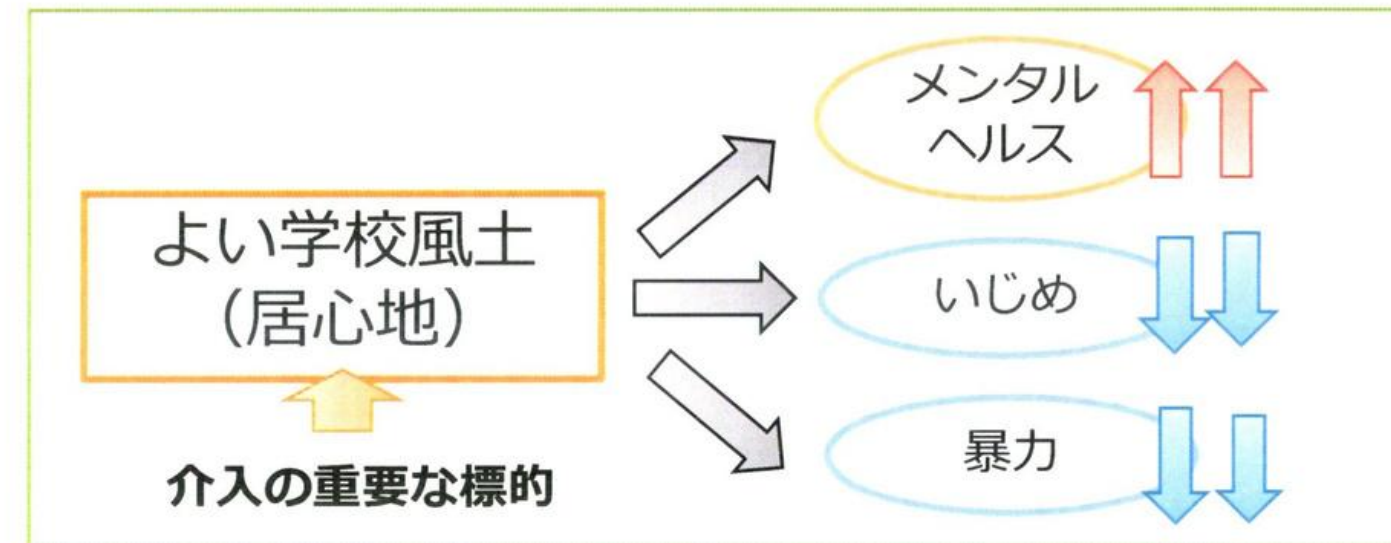
今年度、東京都医学総合研究所及び、東京都子供政策連携室企画調整部企画調整課と共同で、新しいプロジェクトを開始します。



学校の居心地向上プロジェクトとは？

生徒たちの学校経営に対する参画意識を高め、自分たちの手でよい学校を作っていこうという取組

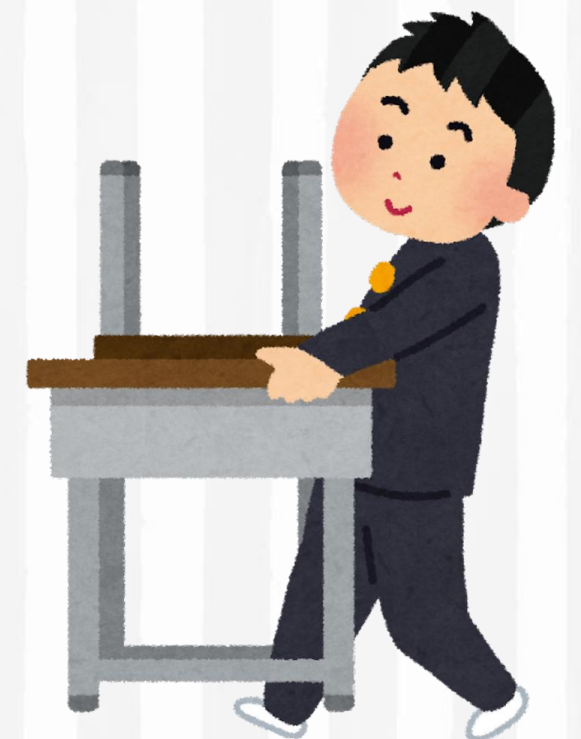
よい学校風土（学校の居心地）は、メンタルヘルスを向上させ、いじめや暴力を減らすこと（因果関係）が証明されている。



“若者の健康とウェルビーイングを促進するためには、**学校の社会的環境（学校風土）を強化**すべきである。”

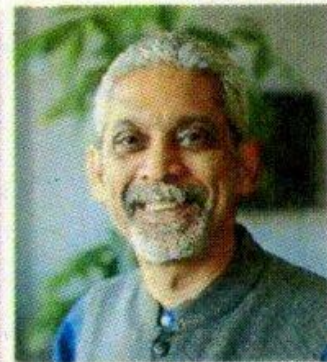
Singla DR, Shinde S, Patton G, Patel V. *J Adolesc Health*. 2021

外国の学校での取組では、**”生徒のメンタルヘルスが向上し、いじめ、暴力行為が減少した”**との報告があります。



学校の居心地向上プロジェクトとは？その2

Promoting school climate and health outcomes with the SEHER multi-component secondary school intervention in Bihar, India: a cluster-randomised controlled trial



ビクラム パテル教授
(ハーバード大・医学部)

精神科医。世界3大医学賞であるガードナー賞を受賞(2019)、TIME誌の世界で最も影響力がある100人にも選ばれる(2015)。

Shinde & Patel, **Lancet**, 2018



インドでの実践の様子

インドの中学校(73校)を対象に「居心地を向上させる取組」の効果を検証

- Health promoting schoolのコンセプトを実現する取組を実施し、学校の居心地が大きく改善。
それによって、生徒たちのメンタルヘルスが大幅に改善し、いじめも9割減少
- 学校の外から「居心地向上」をミッションとするコーディネーター(教師以外の大人)を投入したことで大きな効果が得られた

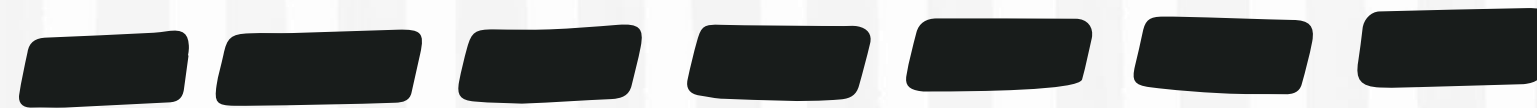


出典：東京都医学総合研究所HPより

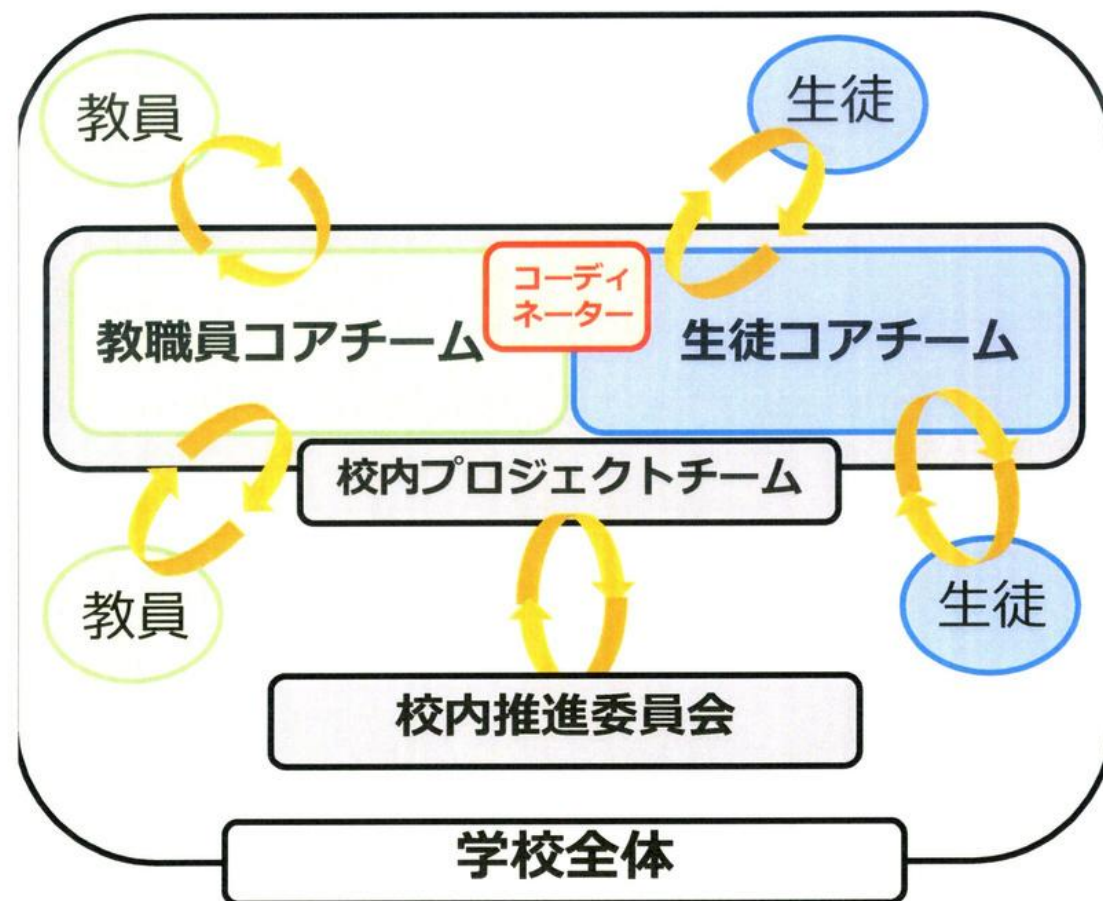
西田 淳志 医学博士

ハーバード大学・医学部の**ビクラム パテル**教授の実践を、日本版として開発されている
東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター センター長であり、
東京大学大学院 教育学研究科 客員教授の**西田 淳志 医学博士**の指導を受けて実施します。

プロジェクトの進め方

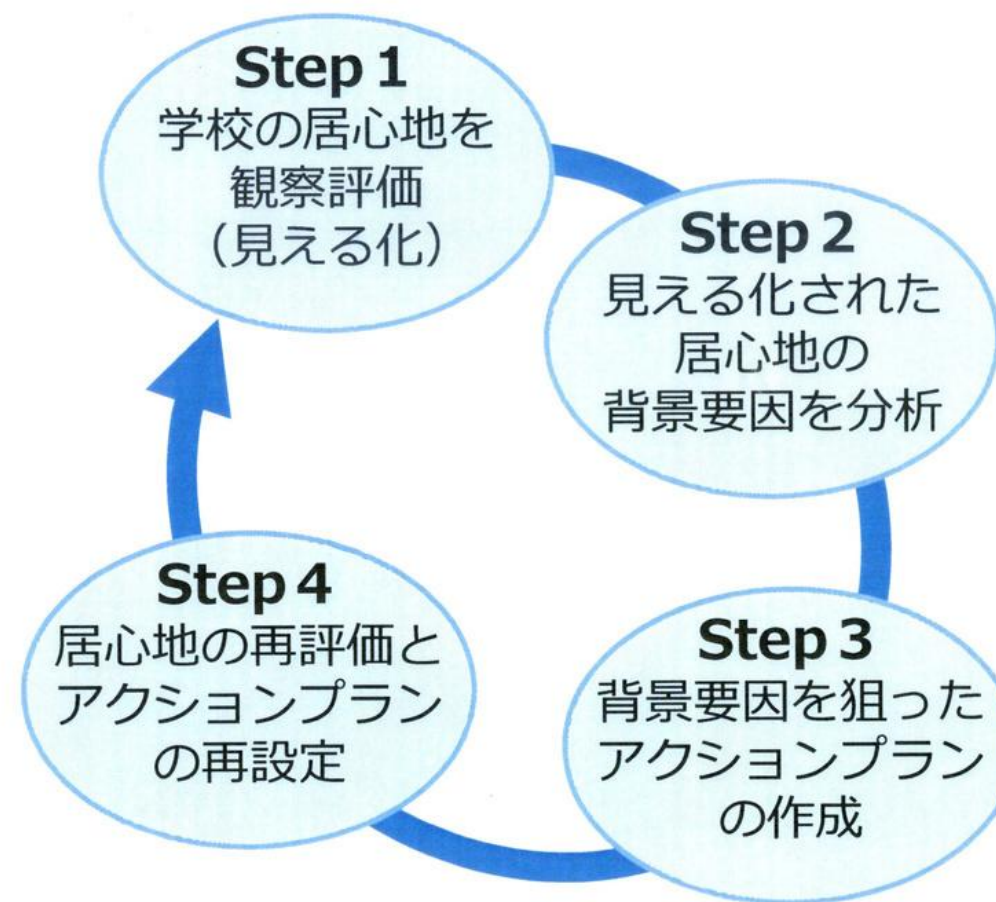


校内プロジェクト実施体制



コーディネーターが、生徒や教員を巻き込みながら、学校の居心地を高める様々な取り組みを進めていく。コーディネーターは、**生徒の意見表明を支援**しつつ、教職員とも連携し、共同創造を促進する役割を果たす。

プロジェクト実施ステップ



学校外部のコーディネーターに来ていただき、生徒コアチームとともに、生徒の居心地をどう改善するかを考えます。

生徒コアチームへの参加については、今後希望を取ります。

生徒コアチームは週に1回ミーティングを実施します。

令和7年度新たな取組

学校の居心地向上 プロジェクト

本プロジェクトを通して、生徒にとっても教師にとっても
居心地の良い駒沢中学校づくりを目指していきます。

